

品目別レポート たら類

■品目説明

日本で流通するたら類は、主にマダラ、スケソウダラ、ヘイク、メルルーサ、ホキ、ミナミダラなどである。近年、日本への輸入が増加しているメルルーサは、品目分類上はヘイクに含まれる。

日本の場合、たら類は主として、冷凍すり身、ラウンド、ドレスおよびフィレの形で輸入されている。マダラは主に生鮮（一部塩蔵、塩干品がある）で流通し、切り身の形でもっぱら総菜に用いられる。スケソウダラは、ほとんどがすり身に加工され、練り製品の主原料となる。スケソウダラの一部はすり身、棒干しダラなどに加工されるほか、冬場にマダラと同様、鍋ものの具材として生鮮で流通する。ヘイクはフィレ加工され、総菜として消費される。なお、ファーストフードのフィッシュバーガーの具材として、骨、皮、内臓などを除いた魚肉部分から一定の形に切り分けられ、粉をつけ、フライにして使用されている。英国では「フィッシュアンドチップス」の材料、韓国では生鮮で鍋の具材として消費されることも多い。

日本の海面漁業によるたら類の19年の漁獲量は20万7,000トンで、前年比16.1%増だった。北海道が18万5,700トン（シェア89.7%）、ほか青森、宮城、岩手で若干量の水揚げがある（農林水産省「漁業・養殖業生産統計」）。

内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出力強化戦略（平成28年5月）」では、韓国では生鮮で消費していることから、韓国向けに生鮮で輸出することでより高い単価で販売することが可能とし、韓国向け輸出を伸ばしていくことを目指す。

■輸出概況

日本の19年たら類の輸出額は、前年比0.8%増の2,688万ドルであった。一方、輸出量は、同30.0%増の1万9,985トンと前年比増となったが、2013年の6万1,026トンと比べると67.4%の減少となっている。

19年のたら類の輸出額を相手国別でみると、中国向けが1位で前年比44.0%増の1,713万ドル、2位は韓国で同41.0%減の646万ドルとなった。上位2か国合計で金額全体の87.7%を占めた。輸出単価は韓国向けがトンあたり2,984ドル、中国向けは同1,065ドルとなっている。

▼表1：日本のたら輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	9,764,389	9,809	11,895,126	9,674	17,132,752	16,086	44.0	66.3
韓国	12,427,981	4,178	10,956,213	3,970	6,460,883	2,165	△ 41.0	△ 45.5
ロシア	867,611	320	2,458,866	748	1,605,524	520	△ 34.7	△ 30.5
ベトナム	1,040,094	946	466,075	457	940,228	679	101.7	48.6
タイ	452,932	519	252,189	331	211,207	245	△ 16.3	△ 26.0
全世界	25,027,439	15,892	26,661,463	15,368	26,882,327	19,985	0.8	30.0

注：対象はHSコード 0302.51, 0302.54, 0302.55, 0302.56, 0302.59, 0303.63, 0303.66, 0303.67, 0303.68, 0303.69, 0304.71, 0304.74, 0304.75, 0304.79, 0304.94, 0304.95

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

■海外事情

●中国

中国における19年のタラ類の輸入額は前年比14.6%増の17億7,948万ドル、数量ベースでは12.1%増の98万3,155トンとなった。中国における高級魚需要の高まりとともに市場が拡大し、中国政府は15年にインターネットプラス(internet+)という電子商取引の強化方針を打ち出したため、通信販売を通じての取引拡大が輸入増にも寄与しているとみられる。

▼表2：中国のたら輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ロシア	908,596,545	709,300	993,104,756	630,155	1,264,643,088	753,793	27.3	19.6
米国	251,178,229	118,594	233,813,428	97,141	171,635,804	68,044	△ 26.6	△ 30.0
ノルウェー	138,159,435	38,426	134,644,086	31,209	128,163,376	28,445	△ 4.8	△ 8.9
ニュージーランド	54,325,026	29,392	56,871,633	27,306	54,627,039	24,788	△ 3.9	△ 9.2
グリーンランド	39,700,421	15,339	43,072,125	12,406	36,472,901	10,561	△ 15.3	△ 14.9
日本(8位)	10,892,225	9,982	12,102,008	9,251	17,815,510	16,401	47.2	77.3
全世界	1,497,398,262	1,006,322	1,552,992,346	876,976	1,779,481,249	983,155	14.6	12.1

注：対象はHSコード 0302.51, 0302.54, 0302.55, 0302.56, 0302.59, 0303.63, 0303.66, 0303.67, 0303.68, 0303.69, 0304.71, 0304.74, 0304.75, 0304.79, 0304.94, 0304.95

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

主要相手国別・地域別にみると、1位のロシアが前年比27.3%増の12億6,464万ドル(シェア71.0%)、2位の米国が同26.6%減の1億7,163万ドル(同71.0%)、3位がノルウェーで同4.8%減

の1億2,816万ドル（同7.2%）だった。日本は8位で同47.2%増の1,781万ドル（シェア10.0%）だった。

●韓国

韓国による19年のタラ類の輸入額は前年比11.1%減の3億7,097万ドル、数量ベースでは同19.9%減の21万7,341トンとなった。主要相手国別にみると、1位のロシアが前年比13.8%減の2億5,138万ドル、輸入量が同28.3%減の16万739トンとなった。シェアは金額ベースで67.7%、数量ベースで73.9%となっている。2位は米国で、輸入額が前年比8.0%減の9,628万ドル、数量が13.7%減の3万2,886トン。3位がオランダで輸入額は前年比9.8%減の800万ドル、数量が同10.7%減の15,258トンとなった。

▼表3：韓国のたら輸入

（単位：ドル、トン、%）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ロシア	299,124,120	229,901	291,637,496	224,220	251,389,003	160,739	△ 13.8	△ 28.3
米国	95,873,531	39,971	104,678,294	38,088	96,285,663	32,886	△ 8.0	△ 13.7
オランダ	7,127,292	15,130	813,770	1,416	8,003,337	15,258	883.5	977.5
日本	13,124,893	4,267	11,383,950	3,981	6,737,801	2,207	△ 40.8	△ 44.6
中国	3,105,986	1,551	6,298,275	2,632	6,286,745	2,799	△ 0.2	6.3
全世界	429,175,453	307,214	417,178,196	271,348	370,976,276	217,341	△ 11.1	△ 19.9

注：対象はHSコード 0302.51, 0302.54, 0302.55, 0302.56, 0302.59, 0303.63, 0303.66, 0303.67, 0303.68, 0303.69, 0304.71, 0304.74, 0304.75, 0304.79, 0304.94, 0304.95

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

従来、韓国で冬の魚といえばスケソウダラとタラが挙げられてきた。ただし、2魚種とも世界的に漁獲量が減少しており、アンコウやフグなどが代替食材として用いられる場合もある。韓国の水域でも、過去の過剰漁獲によりスケソウダラのほぼ絶滅状態であり、ロシア側の排他的経済水域で入札方式によって漁獲するものが大半である。

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

農林水産・食品部 農林水産・食品課

〒107-6006

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル

TEL：03-3582-5186

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。